



みやざき ゆめか ちゃん (5さい)

イチゴの ショートケーキが だいすきだから ケーキやさんに なりたいな。かわいい おみせにするの。えんちょうせんせいも きてくれるらだつて。



摩周丘幼稚園のおともだち



ふじわら こたろうくん (6さい)

おとうさんに おそわって 5さいから モトクロスバイクの のっているよ。おともだちも ならっているんだ。いつか チャンピオンに なりたいな。

町ぐるみでの観光振興活動が活発化

弟子屈の子どもたちが一生懸命頑張っています！



観光客にガイドを行う子どもたち

てしかがえこまち 推進協議会は 子どもガイド実施

てしかがえこまち推進協議会 人財育成部会(萩原寛暢部会長)では9月10日、摩周湖第1展望台で子どもたちによるガイド活動を行いました。夏休みに行った「弟子屈4daysこまちキャンプ」でのさまざまな活動を通して得た、知識や地域の魅力や誇りを観光客の皆さんに伝えるとともに、子どもたちに不足がちなコミュニケーション能力を養ってもらうのが目的です。以前実施した「弟子屈ジュニア自給ガイド」を継承したもので、今

回で4回目となります。今回参加したのは、池上温人君(川湯中3年)、戸田勇太君(川湯小5年)、戸田大地君(同4年)の3人。朝から川湯エコマニージャムセンターでガイド活動のおさらいを行い、11時から約2時間半にわたり、展望台を訪れるお客さまに地域の魅力や誇りをガイドしました。

萩原部会長は「子どもたちも協力して地域の魅力を伝えようと頑張ってくれた。また、思った以上のお客さんが集まりガイドを聞いてくれた。こうした取り組みを続けていきたい」と手応えについて語りました。

弟子屈小学校は 帯広市内で 観光ピリアル

弟子屈小学校(伊藤新校長)の6年生は、修学旅行先の帯広市内で弟子屈町の魅力をPRしました。子どもたちはこれまで、総合的な学習の時間で「弟子屈遺産」に取り組んできました。弟子屈町の自慢できることや



手作りの壁新聞で町の魅力をPR(NHK帯広放送局)

良さを目を向け、興味を持ったことを調べ、壁新聞にまとめている中で、自分たちの町の魅力を再発見しました。修学旅行では、帯広市内のNHK放送局やJR帯広駅など主要な施設や企業を訪れ、作成した情報満載の壁新聞を使って地元弟子屈の魅力をPRし、その壁新聞の掲示をお願いして回りました。学校では「子どもたちが地元の良いところを再確認できた。今後も継続したい」と話しています。これまでに川湯中学校3年生の札幌駅での観光PRや、弟子屈高等学校の「観光甲子園」へのチャレンジなどが行われていて、各方面で町ぐるみでの観光振興への取り組みが今、広まっています。

弟子屈町修学旅行誘致推進協議会(根津文博会長)は9月1日、札幌市内のホテルで「道内中学校教育旅行説明会」を開催しました。同協議会は、道内の主に中学生の修学旅行を積極的に誘致しようと、町と(株)摩周湖観光協会(根津文博会長)、(株)ツーリズムてしかが(白石悠浩代表取締役)で組織したものです。道内の、特に道央

札幌市内で教育旅行誘致 修学旅行誘致推進協議会



札幌市内で行われた教育旅行説明会

圏の中学生の修学旅行は東北地方が中心であったため、町としても道民の道内旅行の活性化や教育的な観点からも、道外ではなく道内での実施についてさまざまなどころで要請していました。今

回、東日本震災の影響で東北での実施が困難となったため、多くの学校が急ぎよ東北海道へ振り替え、本町へも約6千人の中学生が訪れました。こうした中、道央圏の中学校や旅行代理店からの東北北海道の修学旅行の情報が多いとの要請に応え、来年の修学旅行先に選ばれる地域、選ばれる観光地となるべく、摩周湖の町・弟子屈町の豊かな自然環境を生かしたカヌーや自然散策などのエコツア、農業体験などの町の魅力をプロモーションしました。説明会には道央圏の中学校12校の担当教諭と、教育旅行を担当している札幌市内の大手旅行代理店7社の担当者ら約20人が出席。弟子屈町の魅力や観光資源、体験学習などについての説明に熱心に耳を傾けていました。現在、来年の道内中学校修学旅行について、本町での宿泊・体験予約などが動き始めています。



山田流琴千会 代表・茂木 敏子さん 会員・10人



山田流琴千会の皆さん 前列右から二人目が代表の茂木さん

山田流琴千会は山田流琴曲(そつぎょく)を学ぶサークルです。山田流の名取であった瀬野佐千井先生が、弟子屈に居を構えたのをきっかけに教室を開いたのが1947(昭和22)年。たくさんの生徒さんを指導するとともに、弟子屈町文化



お稽古の様子

の皆さんは「合奏がぴったり合ったときの喜びが何とも言えない」「少しずつ積み上げて、みんなの心が一つになるのが楽しい」と話していました。これから、みんな元気で長く続けていくのが目標だそうです。

協会設立(1950年)に尽力するなど、活躍されていたそうです。1991(平成3)年に瀬野先生が亡くなり、会員の皆さんは悲しみに暮れたそうです。悲しみを乗り越えてその年の町総合文化祭に出演。今後は先生をしのびながら活動を続けていこうと、茂木さんを代表にサークルとしての活動が始まったそうです。会員の中には、幼いころに瀬野先生に指導していただいたという方も多くいます。また先生は、標茶町や別海町でも指導を行っていたそうで、当時の生徒さんが今も函館から通ってきているとのこと。とにかく和気あいあいとした楽しいお稽古。そして会員同士の仲がいいのが特徴だそう。「年を重ねると、お稽古を続けることが難しくなってきました。無理をしないで、お互いに補い合っていくことが大切」と茂木さんは話していました。今は、文化祭を前にお稽古に熱が入っているところ。箏曲の魅力について会員の皆さんは「合奏がぴったり合ったときの喜びが何とも言えない」「少しずつ積み上げて、みんなの心が一つになるのが楽しい」と話していました。これから、みんな元気で長く続けていくのが目標だそうです。